

和光市教育振興基本計画  
社会教育における中間評価について  
報告



和光市社会教育委員会議  
令和7年3月21日

## はじめに

和光市教育振興基本計画は、教育基本法に基づく本市の教育振興基本計画である。市の総合的な計画の「第五次和光市総合振興計画」や市長が定めた「和光市教育大綱」を踏まえた教育行政における中長期的な計画である。

現計画の期間が令和3年度から令和7年度までの五か年計画となっており、折り返しとなる3年を経過したことから、和光市教育委員会教育長からの諮問を受け、各施策に基づいた事業に対し社会教育委員による中間評価を実施した。

令和6年10月11日開催の令和6年度第2回和光市社会教育委員会議において、評価対象となる基本施策、評価方法、評価スケジュールについて協議を行った。ここでは①「和光市教育振興基本計画」で掲げた10の基本施策のうち、社会教育に関する施策への取り組み内容を評価対象とすること、②「中間評価シート」を用いて数量的ではなく評価者の主観的な判断や観察に基づいた定性的評価を行うこと、③令和6年12月開催予定の令和6年度第3回和光市社会教育委員会議で中間評価シートの最終確認と配布を行い、令和7年2月までに各委員が評価を実施することを決定した。

### <和光市教育振興基本計画における10の基本施策と評価対象>

基本施策1	確かな学力と自立する力の育成	対象外(学校教育)
基本施策2	豊かな心と健やかな体の育成	対象外(学校教育)
基本施策3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実	対象外(学校教育)
基本施策4	多様なニーズに対応した教育の推進	対象外(学校教育)
基本施策5	家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進	施策3「地域学校協働活動」のみ対象
基本施策6	安全安心な学校施設の整備	対象外(学校教育)
基本施策7	児童や青少年の居場所づくり	対象
基本施策8	生涯学習の振興	対象
基本施策9	歴史的文化資源の保存・活用と創造的な文化の振興	対象
基本施策10	スポーツ・レクリエーション活動の推進	対象

※各施策のうち社会教育に関するものを評価対象とし学校教育に関するものは評価対象外とした

令和6年12月20日開催の令和6年度第3回和光市社会教育委員会議では「中間評価シート」の最終確認を行い、評価方法の確認と評価対象となる取り組みにおける評価ポイントの確認を行った。令和7年3月21日に開催予定である令和6年度第4回和光市社会教育委員会議から約1か月前である2月17日を期限として各委員による評価を実施することとした。

## 各施策に対する評価・提言

### 基本施策5 家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進

#### 施策3 地域を支える組織や関係機関等との連携・協働

本施策の柱である「地域学校協働活動」について、公民館を拠点とした活動内容に対しては評価する意見が多かったが、地域学校協働本部だより「ふれあい通信」を始め、コミュニティスクール・地域学校協働の情報発信力不足が理解度や関心度の低下につながっていると指摘する評価が多く情報発信については改善が必要である。新入学生への説明会等で事業案内を配布する等の方策を検討されたい。

また、活動を担っていくボランティアやリーダーの人材不足や固定化を懸念する意見と、その解決策として定期的な研修やワークショップの開催を提言する意見も寄せられており、これらも含めて検討されたい。

### 基本施策7 児童や青少年の居場所づくり

#### 施策1 学童クラブとわこうっこクラブの一体型施設又は一体的な運営による放課後の児童の居場所づくりの推進

#### 施策2 児童や青少年の居場所づくり

#### 施策3 青少年健全育成活動の支援

#### 施策4 児童・青少年に対する相談支援の強化

放課後の居場所づくり事業である「わこうっこクラブ」に指定管理者制度を導入し、学童クラブとの一体型運営を行っていることに対し評価する意見があったが、事業者による運営となることで現れた課題や地域とのかかわり方への影響について注視していくことも必要である。保護者の意向や希望を継続的に収集し、可能な限り運営に反映していくことも重要と考える。

夏休み等の長期休業中に公民館の自習室開放をはじめ、学校以外の居場所づくりを実施していることは評価できる。今後は不登校児童への対応や公民館、図書館以外の実施場所の拡充、長期休業日以外の実施可能性についても検討されたい。

### 基本施策8 生涯学習の振興

#### 施策1 市民の主体的・自主的な学習活動の支援

#### 施策2 社会教育施設の充実

#### 施策3 生涯学習に関するネットワークの構築と活用

#### 施策4 多様な市民ニーズに対応した講座の企画・開催

#### 施策5 図書館機能の充実

生涯学習講座について、市民大学や子ども大学など和光市の特徴を生かして、他機関とも連携して事業実施ができたことは高く評価できる。また、新倉ふるさと民家園など、市の文化財や社会教育の資源を活用できたことも大きい。一方、市民大学等の開催が平日・日中に偏っているため参加者が限られている現状がある。開催日、開催場所を工夫し、オンライン講座の実施も含め誰もが参加しやすい講座となるよう検討が必要である。

また、単発の講座だけでなく継続的な講座を開催し、公民館・図書館利用者が主体となり学習成果の発表機会を増やす取り組みも検討されたい。

各社会教育施設の経年劣化が進んでいるため適切な修繕や設備更新が必要である。一部施設にはWi-Fi設備が導入されているが、全館への導入を検討されたい。

図書館の蔵書や各種イベントの開催は評価できる。新刊・関連分野・著者などの特設コーナーは定期的実施されているが、来館者に気づかせ興味を沸かせる工夫が必要である。読み聞かせボランティア等のボランティア団体が活動する機会を設けるだけでなく、各団体のニーズに沿って、活動を支えることも図書館の機能に加えるなどすることで、さらなる活躍を後押しできるよう図書館のサポートにも期待したい。

## **基本施策9 歴史的文化資源の保存・活用と創造的な文化の振興**

**施策1 歴史的文化資源の保存・活用**

**施策2 歴史的文化資源の魅力発信と学ぶ機会の充実**

**施策3 地域における伝統文化の継承**

**施策4 文化に触れる機会の提供及び文化交流の推進**

**施策5 自主的で創造的な文化活動の支援**

和光市の歴史的文化施設である「新倉ふるさと民家園」への訪問を小学校の授業に取り入れていることは評価できる。

午王山遺跡等の市内史跡について、市民の認知度が年々上昇してきているが現地までのアクセスの悪さ、周辺設備の未整備等により現地に赴くことが困難な現状がある。史跡周辺の整備とともにアクセスについても改善検討すべきである。

伝統文化の継承にあたり、補助金交付や公民館使用など行政も支援に努めていることが、後継者育成が進んでいる実績にも現れていると考えられる。これらを踏まえると十分に評価できる。一方、高齢化が進む中で、映像保存等も含めた伝統文化の継承に向けてさらに一歩話し合いを重ねていただくとともに、必要なサポートが期待される。

また、文化活動支援はあらゆる世代、多種多様な活動の支援であることから、市民まつり・公民館のまつり・サークル体験フェスタのみで良いのか疑問である。これまでの文化の継承はもちろんであるが、和光市は若い世代も多い特性も踏まえ、目まぐるしく変化していく社会のなかで、新たな文化を生み出す力や文化を発信していく力もあるだろう。触れる機会や発表の機会だけでなく、市民が新たな文化活動を「創造」していくことができるよう後押しする取り組みも検討できるのではないか。

## 基本施策 10 スポーツ・レクリエーション活動の推進

- 施策 1 スポーツ施設の利用促進
- 施策 2 スポーツ施設の維持管理
- 施策 3 学校施設や国の施設の有効活用
- 施策 4 参加しやすいイベントの企画・開催
- 施策 5 スポーツ・レクリエーション活動に関する情報発信
- 施策 6 体育団体の役員の後継者の養成

スポーツ施設の利用者数は目標を超え、市民のニーズに合致していると評価でき、今後も市民のニーズを把握しながら継続的な取り組みに期待したい。スポーツ施設の維持管理は限られた財政の中で難しい課題であるが、活動団体等へのヒアリングを通して市民の声も聞きながら取り組んでいただきたい。

「わこうスポーツ祭り」の開催は、多くの方々の参加もあり、多様なスポーツの体験等もできる機会としても十分に評価できる。継続的な開催を期待したい。

学校の部活動の地域移行という近い将来に向け、地域クラブの活動の中核となる人材が必要であり、社会体育指導員の計画的な養成・確保について検討が必要である。

また、eスポーツやブレイキンなど、若い世代の取り組む新しい形のスポーツへの視点をどのように含めていくかも検討課題である。

## 評価実施委員名簿

### 【社会教育委員会議構成員】

議長…◎ 副議長…○

氏 名	所 属
齊 藤 俊 光	市内県立特別支援学校・高等学校
佐 野 一 機	市立小中学校長会
柳 下 和 弘	市内幼稚園
佐々木 元 子	和光市文化団体連合会
中 根 敏 博	和光市スポーツ協会
小見山 映 二	ボーイスカウト和光団
水 野 晶 子	和光市P T A・保護者会連合会
鈴 木 敬一郎	和光市地域青少年を育てる会連合会
富 澤 仁	和光市民生委員児童委員協議会
伊 藤 芳 夫	和光市自治会連合会
○ 森 田 圭 子	わこう子育てネットワーク
泉 常 夫	学識経験者
◎ 久 米 隼	学識経験者
山 崎 雄 一	公募による市民

### 【中間評価経過】

日 程	内 容	概 要
令和6年 7月23日	第1回社会教育委員会議	和光市教育委員会教育長からの諮問に応じ、社会教育委員会議において和光市教育振興基本計画の中間評価を実施することを受諾
10月11日	第2回社会教育委員会議	中間評価方針に関する協議
12月20日	第3回社会教育委員会議	中間評価シートならびに評価方法の協議・確認
令和7年 3月21日	第4回社会教育委員会議	中間評価とりまとめ結果の確認 教育委員会へ評価結果を報告